

# 国際交流協会ニュース

## —Ichihara International Association—

2019年3月26日 発行 市原市国際交流協会  
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所 人権・国際課内  
TEL 0436-23-9826 FAX 0436-21-1720 e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp  
ホームページアドレス [http://www.geocities.jp/iia\\_ichihara/](http://www.geocities.jp/iia_ichihara/)



### 市原市国際交流パーティ

みんなで盛りあげる 2020 オリパラ  
「ニュージーランドホストタウン市原」!

### 緑豊かなモビール市と交流のあゆみ

### IIA レポート

- 姉崎公民館主催事業「日本語でおもてなし」に参加して
- 食を通して文化を知る「コロンビア」
- 国際交流ひろば「来て！見て！話そう！」



食を通して文化を知る「コロンビア」



国際交流ひろば

# 市原市国際交流パーティ

みんなで盛りあげる 2020 オリパラ「ニュージーランド(NZ)ホストタウン市原」!

2月3日(日)2年振りに協会が主催する市原市国際交流パーティが開かれた。今回は、2020オリパラのホストタウン登録を果たした市原市スポーツ国際交流部の協力を得て、みんなで盛りあげる2020オリンピック・パラリンピック「ニュージーランドのホストタウン・市原!」をテーマとした。市内在住の外国人を含む一般市民、協会関係者、オリパラ推進関係者、教育関係者など幅広い分野から約250人が集い、絆を確認しつつ市民が一体となった瞬間を感じる3時間でした。NZ紹介コーナーには物産販売の他、市内在住の写真家デモン ベイさんとNZ大使館より写真や動物の縫いぐるみ等出品頂き雰囲気一段と盛り上がった。



山崎会長



小出市長



協会を代表して山崎会長が開会の挨拶をした後、小出市長と保坂市議会議長からご挨拶を頂きました。また袖ヶ浦市国際交流協会並びに木更津市国際交流協会のご参加を頂きました。

## 歓談タイム

市原市のスポーツ国際交流部星野部長の音頭による乾杯の後、ビュッフェスタイルのテーブルを囲み料理を楽しみながらの交流が始まった。その間スクリーンにはNZの紹介ビデオが流れた。



## タヒチアンダンスとダンスタイム

ダンスチーム「マタリイ」によるタヒチアンダンスがステージで披露された。男女が織りなす豪快な踊り、NZのハカを思わせ迫力満点! ダンスタイムには、マタリイが「マカレナダンス」を指導した後、全員でマカレナを踊り更に熱気で一体感が深まった。



## 抽選会

パーティ最後の眼玉「抽選会」が行われた。賞品にはNZ物産品が選ばれた。抽選番号が発表される度にチケットの番号とにらめっこ。溜息の連発!!



# 市原市国際交流パーティ ニュージーランドコーナー

「ニュージーランド(NZ)のホストタウン市原」としてNZの人々を迎え、将来に向け相互の交流が進む様に願っています。

＜写真家テイモンベイ氏の写真展示＞



＜NZ物産販売コーナー・NZ大使館展示品（動物縫ぐるみと写真）＞



## 緑豊かな姉妹都市モビール市と交流のあゆみ

姉妹都市部会 部会長 小林 英司

市原市とモビール市（アメリカ合衆国アラバマ州）が、1993年（平成5年）11月10日に姉妹都市提携を結んでから25年という記念すべき時を迎えています。これまで両市合わせておよそ250名に及ぶ青少年をはじめとした多くの市民交流により、互いの友好を深めてまいりました。その25周年にあたり市原市国際交流協会、姉妹都市部会では市原市共催のもと2019年（平成31年）1月12日と13日に更級公園センターの協力も得て同所で「緑豊かな姉妹都市モビール市と交流のあゆみ」展を開催しました。



モビール市の花アザレア（つつじ）はアメリカ南部において人を迎える時の暖かいおもてなしのシンボルとされています。

モビール市観光名所「ベリングラスガーデン」には広大な敷地の中、多くの種類のアザレアが咲きほころび市民の憩いの場所としても知られます。昨年には第108代目のモビール市長より25年のゆるぎない市原市民との友好の証としてそのアザレアが市原市に寄贈され、更級公園隣接の中央図書館近くに無事記念植樹されました。呼応するように、自然豊かな市原市にあって地域市民が多く集う更級公園内にて、ベリングラスガーデン・モビール歴史を留める市街とそこで催されるフェスティバルなどの様子を写真パネル、ビデオやマルディグラ模擬山車などで紹介しつつ、市原市とモビール市との25年の交流のあゆみの記念展示紹介が実

現しました。会場にご来場も頂いた市原市長より展示会に寄せてのモビール市との今日までの多面的な交流そして両都市の輝かしい未来への抱負と励ましのメッセージを頂戴いたしました。2日目は天候にも恵まれ、ご家族連れの方々をはじめ多くの人々に市原市とその姉妹都市モビール市との25年のあゆみを見て頂けました。これから特に青少年のグローバル環境に少しでも役立つことになれば幸いです。



姉崎公民館主催事業「日本語でおもてなし」に参加して

日本語教室部会

「日本語でおもてなし」は3回に渡って開催されました。

1回目は10月22日(月)に講習会が開催され、国際交流に興味を持たれている日本人22名が参加されました。内容は「おもてなしの心とは何か」についてみんなで考えた後、「やさしい日本語を使った文書の作り方、会話の注意点」についての解説と、例題の演習がありました。

2回目は、10月29日(月)に「日本の文化体験」を日本人と外国人で折り紙、茶道と一緒に体験しました。外国人は、姉崎教室で日本語を勉強している生徒さんが参加しました。4班に分かれて、1班のみお茶会に参加し、残りの3班は待っている間に折り紙を習いました。和室でのお茶会は、茶室で静かに行われました。季節を感じさせてくれるお菓子と美味しいお茶を頂きました。折り紙は、羽ばたく鶴やおしゃべりのできるヒヨコなどを折りました。指先の器用な外国人もいて、色々味わい深い体験をしました。

3回目は11月5日(月)に最後の仕上げ

I.I.A.レポート  
活動報告  
2018年10月~12月



のバス研修がありました。日本人、外国人合計38名で、香取神宮参詣、水の駅さわらで昼食、東薫酒造見学、佐原町並み散策のコースで日本人と外国人で自由な会話を行いました。外国人の学習者としては教科書から離れて生きた日本語を勉強でき、日本人にとっては外国人と日本語で話をするいい機会を得、互いに充実した研修となりました。又それぞれの母国語では通じない外国人が、日本語を使って会話をしている姿が印象的でした。さらに、テレビ局の取材に応じていた外国人の方もおられましたが、放映されたかどうかは不明です。

食を通して文化を知る  
「コロンビア」

交流部会

12月9日(日)コロンビア出身のマリアフェルナンダ 石橋さんを講師にコロンビアの家庭料理とコロンビアについて教えて頂きました。料理はハーブやピーナツで作ったソースなど普段日本食では使わない食材をふんだんに使った煮込み料理のようなものですが、出来上がっただけの料理は参加者にも好評で日本人の食卓に簡単に取り入れられるものでした。試食の後、コロンビアについてお話を聞きました。長く治安の問題等がありましたが、近年やっと国情が落ち着いてきたそうです。コロンビアはスペイン統治下の建物も多く残り、コーヒーや宝石等産出され、多様性のある自然も魅力的な国のようにです。



(各料理のレシピはHPに掲載します)

国際交流ひろば『来て! 見て! 話そう!』

10月21日(日) 交流部会



今日はこの秋にしては珍しい絶好の好天気。会場のyouホールのまわりの、上総更級公園も人出で一杯。本日の参加国数は10か国。又料理参加国も10か国。

定刻10時半、パネルディスカッション開始。スピーカーはブラジル、インドネシア、中国の3カ国から。質問コーナー

では民族衣装は普段着るのか?との質問。インドネシアは新年等時々着る、との回答。中国はあるが全く着ない。ブラジルはそもそも無い、との回答。その他ブラジルのサッカーは何故強いのか、との質問。子供の頃から遊びと一緒にやっているからとの回答に納得。続いて各国のブース紹介。向かって右からブラジル、ペルー、インドネシア、ネパール、台湾、ベトナム、中国、フィリピン。思い思いの展示に工夫を凝らしていた。

12時頃から愈々試食タイム。皆行儀よく、順番に列を作る。今日の料理は日本、

タイ、ベトナム、台湾、インドネシア、米国、ペルー、ブラジル、フィリピン。米国の参加は珍しい。今日はたっぷり1時間まで時間があり、何回もお代わりをしていた。ドリンクコーナーも充実。

午後はステージパフォーマンス。「三浦明珠とBGバンドの歌とバンド演奏」、続いて「なんちゃってネーネーズ」の三線と沖縄歌謡で盛り上がった。引き続きクイズタイムがあり、フィナーレは三線の伴奏で皆で沖縄舞踊カチャーシーを踊り熱狂の内にプログラムを終了した。最後は各国の若者を中心に皆でお片付け。交流部会の団結力を見せた。